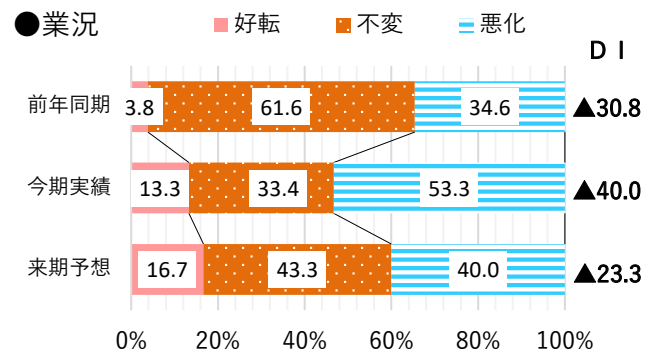


小 売 業

業況、売上、採算

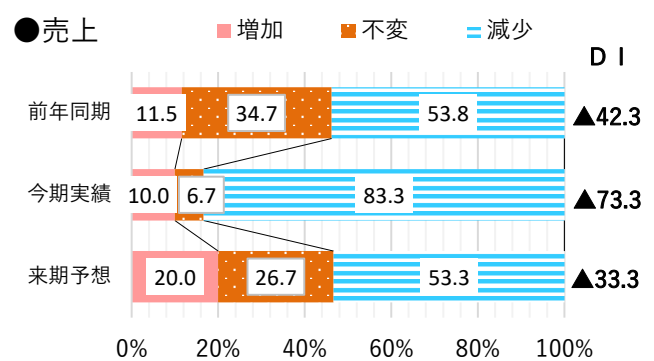
今期(2020.7~9)の業況判断DIは▲40.0で、前年同期(2019.7~9)と比べ9.2ポイント低下しました。

来期(2020.10~12)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



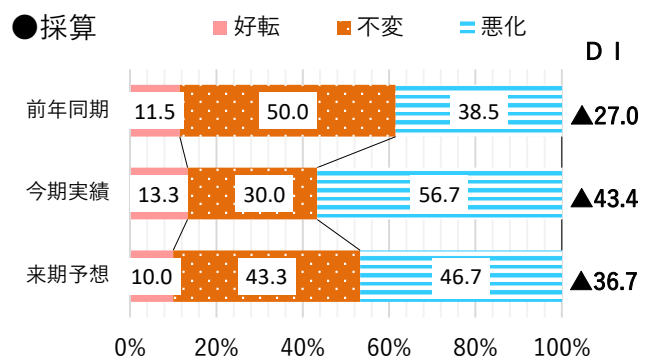
今期の売上高DIは▲73.3で、前年同期と比べ31.0ポイント低下し、大幅に減少しました。

来期は、売上の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。

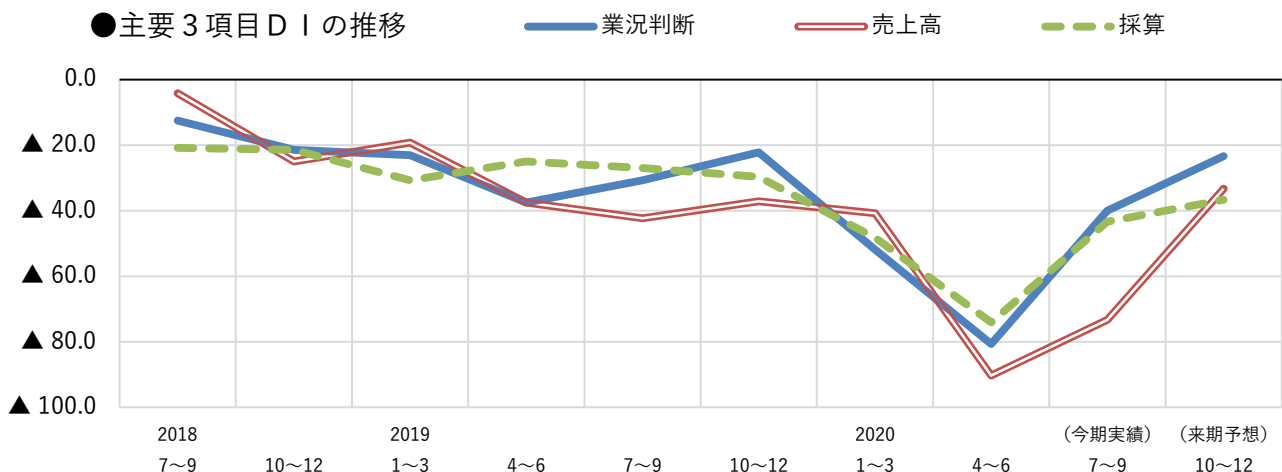


今期の採算DIは▲43.4で、前年同期と比べ16.4ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



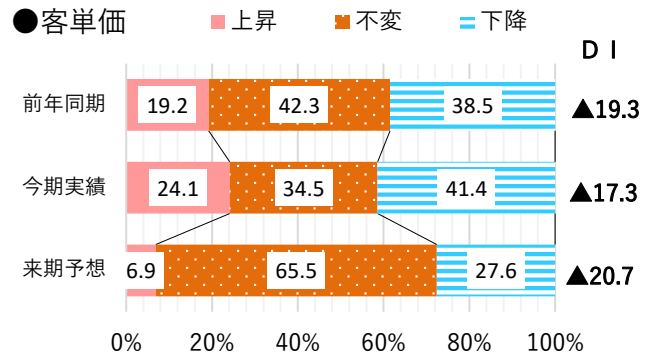
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

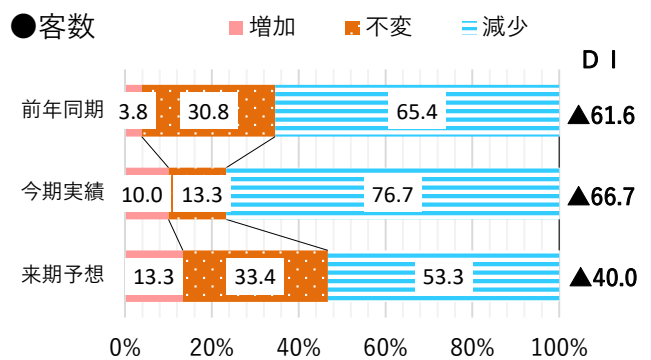
今期の客単価DIは▲17.3で、前年同期と比べ2.0ポイント上昇しました。

来期は、客単価の下降傾向に大きな変化はないと予想しています。



今期の客数DIは▲66.7で、前年同期と比べ5.1ポイント低下しました。

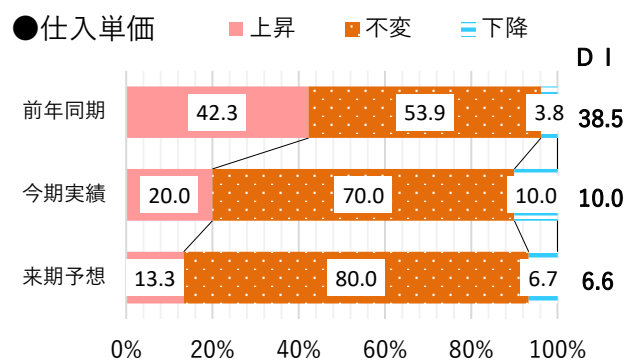
来期は、客数の減少傾向が弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

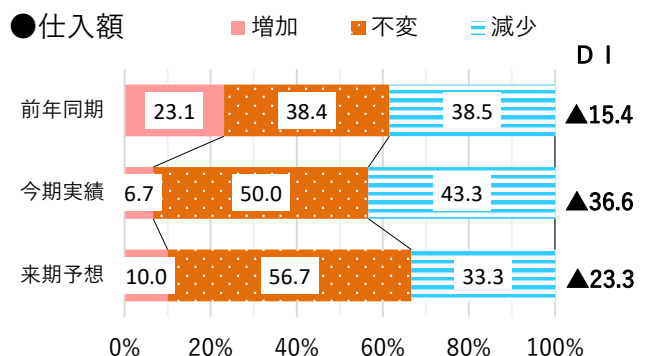
今期の仕入単価DIは▲10.0で、前年同期と比べ28.5ポイント低下しました。

来期は、仕入単価に大きな変化はないと予想しています。



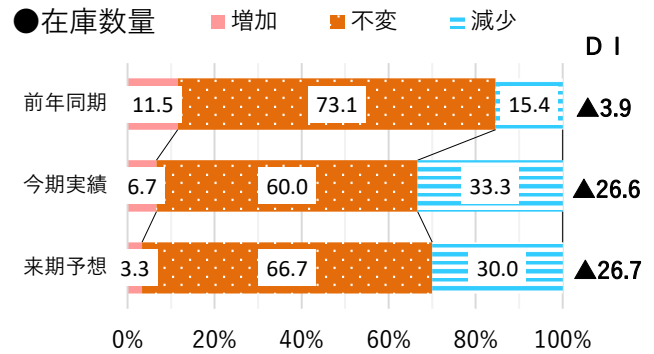
今期の仕入額DIは▲36.6で、前年同期と比べ21.2ポイント低下しました。

来期は、仕入額の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲26.6で、前年同期と比べ22.7ポイント低下しました。

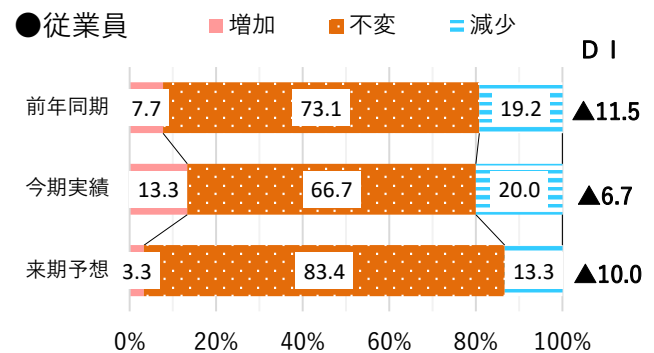
来期は、在庫数量のほぼ横ばいを予想しています。



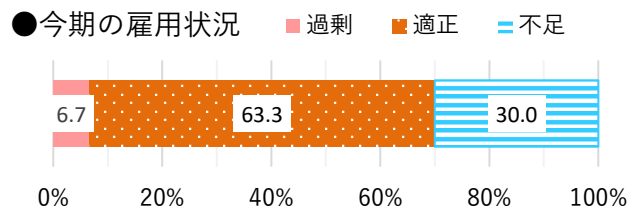
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲6.7で、前年同期と比べ4.8ポイント上昇しました。

来期は、従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は6.7%、適正であると回答した企業の割合は63.3%、不足していると回答した企業の割合は30.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の50.0%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	2
	適正	15
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	4

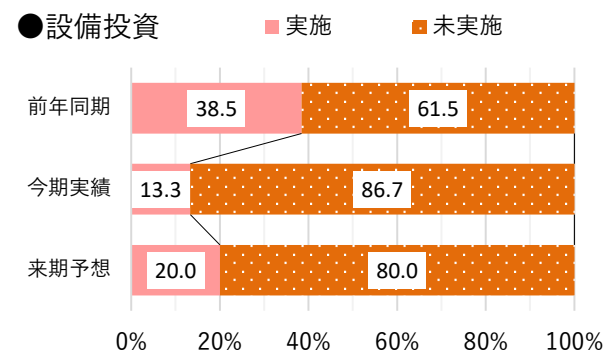
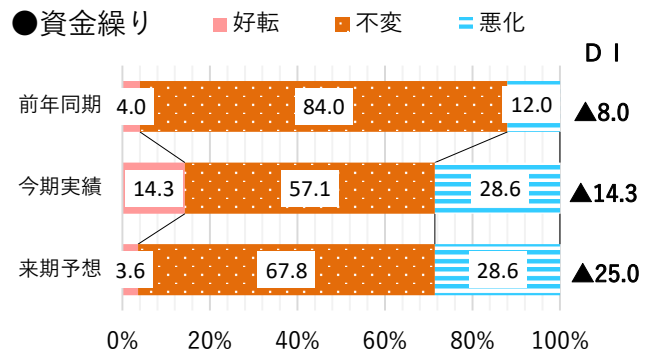
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲14.3で、前年同期と比べ6.3ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向に大きな変化はないと予想しています。

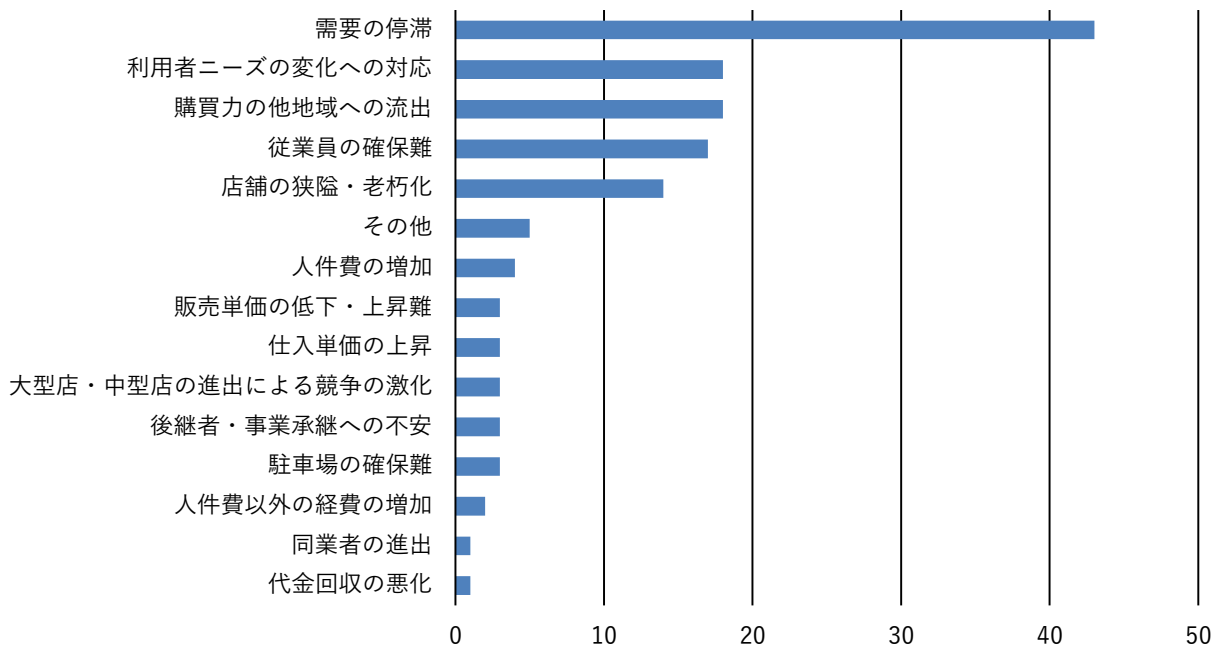
設備投資を実施した企業の割合は13.3%で、前年同期と比べ25.2%低下しました。投資内容は1位が「土地」、2位が「車両運搬具」、「付帯施設」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は20.0%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「利用者ニーズの変化への対応」、「購買力の他地域への流出」（同位）、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 観光関連施設への売上が落ち込んだが、徐々に回復している。外食産業も同様の傾向にある。店頭販売、ネット販売ともに好調である。(食料品小売)
- 新型コロナウイルスの影響で、売上がやや減少した。病院のクラスターの影響で、市民の消費マインドが減退傾向にあると思われる。(食肉小売)
- お盆の売上は昨年並だった。(菓子製造小売)
- 新型コロナウイルス感染拡大のために取り組んでいた営業時間の削減が解除されたことと、店舗数の増加により売上が増加した。(衣服・身の回り品小売)
- ネット販売の増加や新型コロナウイルスの影響で、売上と客数が減少した。(衣服・身の回り品小売)
- 花園でクラスターが発生し、市民が外出を控えたため売上が減少した。(衣服・身の回り品小売)
- 店頭販売が減少し、通販の売上が増加した。(衣服・身の回り品小売)
- コロナ禍の影響か、注文が減少した。(衣服・身の回り品小売)
- 整備件数は前年並みだったが、車両の販売が減少した。先の見通しが立たないため、法人の動きが鈍い。(自動車小売)
- 新型コロナウイルスの影響はほぼ無いが、新車を見に来る客数が減少した。(自動車小売)
- 売上が減少した。収益構造が変化した。(自動車小売)
- 人材確保に苦労している。(自動車小売)
- 前期に引き続き、売上が伸長した。前年9月は、消費税増税前の駆け込み需要により酒や日用品の売上が伸長したが、本年は前年割れとなり、他の商品で売上の減少分をカバーしている。この流れが今後も続くと思われる。(大型店)
- 全道の当社店舗の平均値と比較して、当店がある後志の業績は良くない。新型コロナウイルスによるインバウンドの減少が市場に大きな打撃を与えており、回復までの道のりは長いと思われる。(大型店)
- 客数が減少し、業況が悪化した。(大型店)
- 新型コロナウイルスによる業況の悪化は改善傾向にあるが、まだ楽観はできない。(ドラッグストア)
- 消費税増税前の駆け込み需要が無いため、前年同期比の収支はマイナスとなった。(ホームセンター)
- 例年と比べ気温が高い日が続いたため、夏物が売れた。取引先は新型コロナウイルスの影響を脱しておらず、業況が低迷しているようだ。(コンビニ)
- 巣ごもりの影響か、売上額、利用客数ともに減少した。(コンビニ)

[来期の業況について]

- ネット販売を強化しており、売上の増加を見込んでいる。観光関連と外食産業の回復が期待される。前年比で伸長した店頭販売の売上を維持できるかが課題である。(食料品小売)
- 新型コロナウイルスの先行きが見えないので、注文数の減少が続くのではないかと懸念している。(菓子製造小売)
- 景気の改善に期待したいが、人口や働く場の減少に伴って商品の販売力が低下し、更に厳しい状況に陥るのではないかと懸念している。(衣服・身の回り品小売)
- 例年取扱商品の需要が高まる時期のため、売上の増加を見込んでいる。(衣服・身の回り品小売)
- 通年販売の商品が安定的に売れると思われる。商品在庫は確保できている。(衣服・身の回り品小売)
- 不安を感じている。同業者の廃業もやむを得ないだろう。(衣服・身の回り品小売)
- 新型コロナウイルスの終息による明るい展望を期待する。(衣服・身の回り品小売)
- 新商品販売開始のため、仕入額が増加する見込みである。収益への影響は来年以降だと思われる。(自動車小売)
- 新型コロナウイルスの影響による解雇や減収の話が聞かれるので、車検はより安い店舗に流れると思う。(自動車小売)
- 新型コロナウイルスの状況は変わらないと思われる。(自動車小売)
- 利用客数の減少が見込まれる。(自動車小売)
- 業況の好転に期待したいが、低迷が長引く状況では投資に厳しい判断が求められる。1年の中で最大商戦となる歳末に弾みをつけるため、早めに準備を行う。(大型店)

- インバウンド需要の持ちなおしに期待する。(大型店)
- 新型コロナウイルスの状況に左右される。新たな取り組みの必要性を感じている。(ドラッグストア)
- 新型コロナウイルス流行に伴う特需も落ち着き、売上は減少すると思われる。(ホームセンター)
- 新型コロナウイルスやインフルエンザの動向に左右されるだろう。(コンビニ)
- 新型コロナウイルスの終息を願う。(コンビニ)